

映画『シン・ゴジラ』で大活躍した

コンクリート ポンプ車登場

コンクリートをポンプ車で圧送し流し込む機械はドイツ、プツマイスター社やシュイング社、日本では極東開発が製造している。アーム長11mから、70mという一番長い仕様まで用途に応じた機種が用意されているが、シン・ゴジラで活躍したのはアーム長38mだ。





代表取締役
佐藤隆彦氏

圧送業界最大手「ヤマコングループ」230名の社員をまとめる代表の佐藤氏。安全第一を基本とし建設業各社から厚い信頼を得ている



左ページは日野プロフィアをベースにした極東開発の28m。写真上は映画に登場したUDトラックスクオンをベースにしたプツマイスター-38m。写真下3点は極東開発製。リモコン装置で全体を把握して作業ができる

ATTACK SHIN GODZILLA

2016年に公開され話題になった特撮映画「シン・ゴジラ」。ゴジラファン、SFファンでなくとも見た人は多いのではないだろうか。

初代ゴジラが生まれたのは1954年ともう60年以上も前で、シン・ゴジラはなんと29作目となる。歴代ゴジラは東京を何度も破壊してきたが、今回も関東に上陸して東京に大きなダメージを与えた。その身長は118.5mと、歴代のゴジラの中でも一番大きい設定だ。お台場のフジテレビ本社ビルが123.45mなので、それと同等と考えれば想像しやすい。初代ゴジラはその半分以下、50mであった。

そして今回はゴジラを倒すのに多数の重機が活躍した。特に目についたのはコマツが誇る一番大型の「WA1200ホイ-

ルローダ」、ドイツ・リープヘル社の「リープヘルR9800マイングショベル」は800トンクラスの超大型でWA1200同様の鉱山用重機だ。余談だがWA1200は国内で数台が活躍しているが、リープヘルR9800は大きすぎて国内では使われていない。

映画終盤のヤシオリ作戦ではミサイルやロケットなどさまざまな武器やアイデアを投入し東京駅付近でゴジラを倒したが、最後に大活躍したのが「コンクリートポンプ車」であった。これは長いブームを使いコンクリートを圧送する機械だが、劇中ではコンクリートの代わりに血液凝固剤を口から流し込み、ゴジラを凍結させたのだった。

シン・ゴジラに登場したコンクリートポ

ンプ車は山形のヤマコングループが所有するUDトラックのクオンがベースでブーム長38mを誇る「プツマイスター-M38」だ。ほとんどCG処理された映像で、ブームを伸ばしたまま走行している（実機では危険なのでできない）。また海外製トラックのエンブレムが違う形に変えられていたり、分析も面白い。

ヤマコングループは創業1966年と51年の歴史がある。プツマイスター製をはじめコンクリートポンプ車を100台所有していて、コンクリート圧送工事業をメインとする会社。生モノといわれるコンクリートをいかにスムーズに取り扱うか、時間の勝負だ。同社の鮮やかな赤の車両には豊富な現場経験と確かな仕事への自信が現れている。